



2023年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年4月13日

上場会社名 株式会社 F I X E R 上場取引所 東
 コード番号 5129 URL <https://www.fixer.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 松岡 清一
 問合せ先責任者（役職名） 取締役（氏名） 磐前 豪（TEL）03(3455)7755
 四半期報告書提出予定日 2023年4月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

（百万円未満切捨て）

1. 2023年8月期第2四半期の業績（2022年9月1日～2023年2月28日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第2四半期	6,479	—	1,545	—	1,524	—	956	—
2022年8月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2023年8月期第2四半期	66.50		61.49					
2022年8月期第2四半期	—		—					

- （注）1. 当社は、2022年8月期第2四半期については四半期財務諸表を作成していないため、2022年8月期第2四半期の数値及び2023年8月期第2四半期の対前年同四半期の増減率については記載しておりません。
 2. 2023年8月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当社株式が2022年10月6日に東京証券取引所グロース市場に上場したため、新規上場日から当第2四半期会計期間の末尾までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第2四半期	7,164	5,285	73.8
2022年8月期	7,188	3,211	44.7

（参考）自己資本 2023年8月期第2四半期 5,283百万円 2022年8月期 3,210百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年8月期	—	0.00			
2023年8月期（予想）			—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年8月期の業績予想（2022年9月1日～2023年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,132	6.8	1,863	△22.2	1,861	△22.2	1,178	△21.2	81.16

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年8月期2Q	14,656,200株	2022年8月期	13,663,200株
2023年8月期2Q	一株	2022年8月期	一株
2023年8月期2Q	14,382,100株	2022年8月期2Q	45,544株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が継続しているものの、政府による各種政策の効果もあり、社会経済活動の正常化の動きが継続しております。一方で世界的なインフレ傾向が継続しており、各国の政策金利引き上げの影響による円安もあり、国内経済の先行きは不透明感が増しております。

当社が属する国内の情報サービス産業においては、デジタル化の推進による効率化への需要は引き続き強く推移しております。特にアナログな事務作業のデジタル化や、オンプレミスで運用されているレガシーシステムのクラウド化へのニーズは非常に強く、エンジニア不足の状態が継続しております。

このような環境下、当社はクラウドネイティブカンパニーとして、「日本のエンタープライズシステムにグローバル品質のクラウドパワーを」をミッションに掲げ、世界一クラウドネイティブなシステム開発力と最高位パートナーに認定「Azure Expert MSP」のマネージドサービスの提供を通じて、日本のDX(デジタルトランスフォーメーション)の加速に取り組んでまいりました。

具体的には、プロジェクト型サービスで開発したシステムを、Microsoft Azureを中心としたパブリッククラウド上で保守・運用を請け負うマネージドサービスと、パブリッククラウドの販売を行うリセール、顧客ニーズの高い機能をプラットフォーム化した高付加価値のSaaS(ソフトウェア・アズ・ア・サービス)として提供してまいりました。

2020年8月期より開発・運用を請け負ってきた厚生労働省の新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(HER-SYS)において、追加改修を行った他、ライセンスの高水準での利用が継続しております。健康観察業務を支援する自動架電サービス(SaaS)では、利用が前回の想定を若干上回っております。公益財団法人の大型AWS(Amazon Web Services)移行案件については、開発スケジュールの若干の見直しを行っておりますが、概ね順調に推移しております。

コスト面では将来の成長を支える人材採用を積極化するなど、成長投資の強化に取り組んでおります。

以上の結果、当第2四半期累計期間の経営成績は、売上高6,479,326千円、営業利益1,545,952千円、経常利益1,524,083千円、四半期純利益956,372千円となりました。

なお、当社の事業はクラウドサービス事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしていません。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は7,164,128千円となり、前事業年度末に比べて24,429千円減少しました。これは主に、現金及び預金が253,492千円、投資その他の資産が151,570千円増加した一方で、売掛金及び契約資産が496,619千円減少したことによるものであります。投資その他の資産の増加は、主に東京本社増床等により敷金が189,275千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債は1,878,875千円となり、前事業年度末に比べて2,097,761千円減少しました。これは主に、買掛金が1,376,620千円、未払法人税等が368,786千円、流動負債のその他が230,412千円減少したことによるものであります。流動負債のその他の減少は、主に未払消費税等が166,008千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は5,285,253千円となり、前事業年度末に比べて2,073,332千円増加しました。これは、資本金が558,480千円、資本剰余金が558,480千円増加し、四半期純利益956,372千円を計上したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ253,492千円増加し3,938,628千円になりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、支出した資金は512,979千円となりました。これは主に、税引前四半期純利益が1,524,083千円、売上債権の減少額が496,619千円あった一方で、仕入債務の減少額が1,376,620千円、未払金の減少額が101,288千円、法人税等の支払い額が894,023千円あったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、支出した資金は281,356千円となりました。これは主に、敷金の差入による支出が192,758千円、有形固定資産の取得による支出が91,956千円あったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、獲得した資金は1,047,828千円となりました。これは主に、株式の発行による収入1,116,960千円によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月期の業績予想につきましては、2022年12月15日に公表いたしました業績予想の数値から変更はありません。

なお、業績予想などの将来予測情報につきましては、現在入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の実績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年8月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,688,135	3,941,628
売掛金及び契約資産	2,874,935	2,378,315
その他	142,710	132,917
流動資産合計	6,705,780	6,452,860
固定資産		
有形固定資産	99,411	176,331
投資その他の資産	383,365	534,936
固定資産合計	482,777	711,267
資産合計	7,188,558	7,164,128
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,143,915	767,295
1年内返済予定の長期借入金	80,393	48,034
未払法人税等	934,402	565,616
賞与引当金	163,630	91,080
その他	616,012	385,600
流動負債合計	3,938,353	1,857,625
固定負債		
長期借入金	38,283	21,250
固定負債合計	38,283	21,250
負債合計	3,976,636	1,878,875
純資産の部		
株主資本		
資本金	650,546	1,209,026
資本剰余金	615,546	1,174,026
利益剰余金	1,944,254	2,900,626
株主資本合計	3,210,346	5,283,678
新株予約権	1,575	1,575
純資産合計	3,211,921	5,285,253
負債純資産合計	7,188,558	7,164,128

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自2022年9月1日 至2023年2月28日)
売上高	6,479,326
売上原価	4,155,915
売上総利益	2,323,410
販売費及び一般管理費	777,458
営業利益	1,545,952
営業外収益	
受取利息	19
雑収入	427
営業外収益合計	446
営業外費用	
支払利息	477
上場関連費用	7,900
株式交付費	11,839
為替差損	2,098
営業外費用合計	22,315
経常利益	1,524,083
税引前四半期純利益	1,524,083
法人税等	567,711
四半期純利益	956,372

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	1,524,083
減価償却費	14,815
株式交付費	11,839
上場関連費用	7,900
受取利息及び受取配当金	△19
支払利息	477
売上債権の増減額 (△は増加)	496,619
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,376,620
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△72,550
未払金の増減額 (△は減少)	△101,288
未払費用の増減額 (△は減少)	30,732
その他の資産の増減額 (△は増加)	12,720
その他の負債の増減額 (△は減少)	△167,205
小計	381,504
利息及び配当金の受取額	16
利息の支払額	△477
法人税等の支払額	△894,023
営業活動によるキャッシュ・フロー	△512,979
投資活動によるキャッシュ・フロー	
固定資産の取得による支出	△91,956
敷金の差入による支出	△192,758
敷金の回収による収入	3,359
投資活動によるキャッシュ・フロー	△281,356
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△49,392
株式の発行による収入	1,116,960
株式の発行による支出	△11,839
上場関連費用の支出	△7,900
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,047,828
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	253,492
現金及び現金同等物の期首残高	3,685,135
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,938,628

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年10月6日に東京証券取引所グロース市場に株式を上場いたしました。この上場にあたり2022年10月5日を払込期日とする公募増資（ブックビルディング方式による募集）による新株式600,000株の発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ369,840千円増加しております。

また、2022年11月7日を払込期日とする第三者割当増資（オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資）による新株式300,000株の発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ184,920千円増加しております。

その他、新株予約権の行使による増加を含め、当第2四半期会計期間末において資本金が1,209,026千円、資本剰余金が1,174,026千円となっております。